

大学に於ける日本語予備教育に 求められるもの

池 原 明 子
進 藤 真 理
永 吉 節 子

要 旨

本校の日本語コース（日本語予備教育）は学習者が学部での一般教科、専門教科の受講が円滑に進められるように、設けられたものであり、学習者は大学に於いて、日本語の習得と同時に、専門教科を習得するという目的をもって来日している。本校の日本語コースの学習者が6か月の日本語予備教育の後、学部の教科を受講していくと、言語的困難と新しい環境という二重の課題に直面することになる。留学生の学部授業の受講を円滑に進めるために、日本語コースを終了し、学部授業を受講する本校学部留学生、及びその担当教官を対象にアンケート調査を行って、日本語コース終了時の到達度と学部授業の理解度、学習者の満足度との関連、学習者のニーズを分析した。

その結果留学生、担当教官共に、講義の内容は50%以上理解できるとしながらも、一方で留学生はかなり困難を感じるとも回答しており、留学生が、何に困難を感じ、どう対処しているか、また、教官側が留学生の理解度、困難度を、どの程度把握し、対処しているかを分析し、日本語コースとして、学部学生の学部授業に対応できる日本語能力を伸ばす為の方策を探る一助としたい。

1 調査の目的

第一経済大学日本語コース（予備教育）が開設されて4年が経過した¹⁾。2000年に発足した当コースでは各国の学年歴に沿った形で4月に韓国から、10月に台湾からの学生を受け入れている。このコースの特色は各国から直接受け入れた留学生を1年間の日本語予備教育で大学学部の講義に対応できる日本語能力をつけることである²⁾。留学生は6か月間の日本語集中コースの後、継続してもう6か月間日本語教育を受けながら、同時に学部の授業を受講していく。

本調査は学部授業を受講していく留学生に対する一年間の日本語予備教育を再検討、改善していくことを目的とするものである。本稿に於いて、このコースを受講した学習者自身とその一般教科、専門教科を担当された教官を対象に行ったアンケート調査をもとに大学レベルの日本留学を成功に導くために、

- 1) 日本語能力の必要性を学習者自身と担当教官がどのように認識しているか。
- 2) 留学生が学部授業を十分に理解し、授業に主体的に参加していくために改善できることは何か。

の2点から、双方のニーズを把握し、検討することによって、どのような日本語能力が求められており、有効であるかを探って、日本語予備教育に取り入れていくことを目的とする。

2 調査の方法

2003年（平成15年）9月から台湾、韓国の1年から3年までの108名の留学生（この中に台湾の交換留学生1名を含む）に、アンケートの回答を求めると同時に、その留学生を教える各教科、担当教官49名にも依頼した。そのうち、留学生55名から（回答率50%、内、無効1名）、担当教官47名（回

答率96%) から、回答を得た。

回答は、担当教官からは教務課の協力の下9月中に回収が終了したが、学生からの回収には3か月半を要し、2004年1月末に回収が終了した。尚、アンケート項目は2003年3月から第一経済大学、日本語コース専任、非常勤講師、12名^⑦で、研究会を発足し、留学生アンケート担当、担当教官担当の2グループで、アンケート項目の検討をした上で、調査項目を決定し、アンケートを留学生、担当教官に依頼、回収した。その後、専任講師で、調査結果の統計、分析、まとめを行った。

3 日本語学習者の背景

学部の講義を受講する際に様々な学習ストラテジーが要求されるが、その前提として受講者の日本語能力が講義内容を理解するためには大きく影響する。

日本語コースでは一クラスの中に、多様なレベルの日本語能力学習者を受け入れて、日本語教育を行っていく。韓国、台湾、両国からの留学生の入学時期、日本語習得に要する時間、日本語能力レベルに違いがあり、各学生のニーズも相違があると予想されるので、まず、留学生の自国での日本語の事前教育の有無、あれば、その時間、日本語能力試験の受験経験の有無^⑧について調査した。その結果は表1、2、3に表す。アンケート調査に回答した韓国人留学生は2001年度入学生中、事前に日本語教育を受けていた学生が10名中、4名、受けていなかった学生が6名、2002年度以降の入学生は全員が事前に日本語教育を受けて来日、入学している。これは、一年目の留学生や保護者の希望、依頼等に対する対策が早速、本校の韓国釜山事務所を通して行われた成果だろうと思われる。その他に韓国では高校で日本語教育を行う学校が多く、高校で日本語を学習した学生が日本の大学への学部入学を希望する事が多いこともその理由の一つである。

一方、台湾人留学生は2001年度入学生から日本語事前教育の有無の比率は

あまり変わっていない。それは日本語教育を行う高校の数が、韓国に比べると少ないという現状のせいもあると思われる。

漢字圏の台湾留学生にとって漢字の知識は講義を理解する際の大きな助けになるが、漢字教育がほとんど行われていない韓国からの留学生にとっては、講義に使われるテキスト、板書、を理解していく上で、漢字の知識の不足がハンディになっている。

表 1

| あなたは日本に来る前に日本語を勉強しましたか | | は い | いいえ | 無回答 | 回答者計 |
|------------------------|----|-----|-----|-----|------|
| | 台湾 | 8 名 | 11名 | 1 名 | 20名 |
| | | 40% | 55% | | |
| | 韓国 | 24名 | 6 名 | | 30名 |
| | | 80% | 20% | | |

表 2

| あなたは日本に来る前に日本語を何時間くらい勉強しましたか | | 150時間以上 | 150～300時間 | 300～600時間 | 600時間以上 |
|------------------------------|------|---------|-----------|-----------|---------|
| | 台湾 | 4 名 | 0 名 | 1 名 | 2 名 |
| | 8 名中 | 44% | 0 % | 11% | 22% |
| | 韓国 | 14名 | 6 名 | 3 名 | 1 名 |
| | 24名中 | 58% | 25% | 13% | 4 % |

表 3

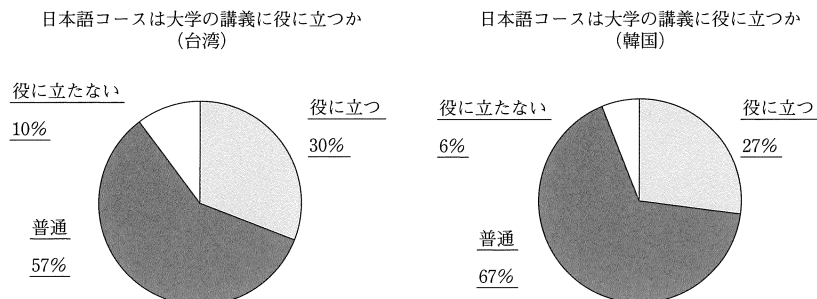
| あなたは日本に来る前に、日本語能力試験を受けましたか | | は い | 級 数 | 合 否 |
|----------------------------|----|-----|-------|------------------|
| | 台湾 | 4 名 | 2・3・4 | 2 = 合・否 4 = 合 |
| | | 20% | | 3 = 否 |
| | 韓国 | 10名 | 1・2 | 1・2 = 否 |
| | | 33% | | |

4 予備教育に対する学習者の評価

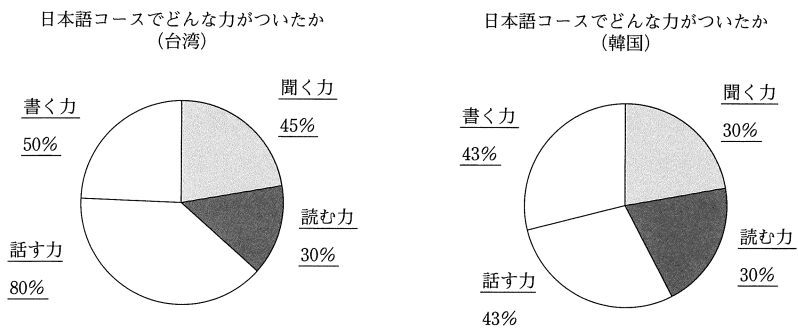
現在、日本語コースは、異なる国籍、母国語、前出したように、日本語能力レベルも様々な学習者を受け入れている。日本語教育（予備教育）が留学生にとってどのくらい、有効であったかを見るために、日本語コースをどのように評価しているかみた。グラフ4にあるように、韓国人留学生の27%、台湾人留学生の30%が日本語コースの予備教育が大学の講義受講の際に役に立つ、韓国人留学生の67%、台湾人留学生の57%が普通だと回答している。この普通という回答は日本語コースの日本語教育へのマイナス評価と言うよりはプラス評価と考えられ、いずれの留学生も一年間の日本語コースでの日本語習得が役に立っていると評価していると考えていいと思われる。役に立たないと答えた学生の中に数名が一年間の日本語コースを終了しても、大学の学部の講義を受講するレベルには到達できなかったと答えている。特に1年生（2003年度入学生）はこの調査時点で、一般教科を受け始めて数ヶ月しか、たっていない、講義で要求されることと、日本語の到達度の関係がつかめていず、日本語能力が不足しているということのみが自覚されている。これが2、3年生になると、能力の不足部分を聴解力、読解力、又は会話力と具体的に指摘できるようになっている。

グラフ5は日本語コースの学習で、どのような力がついたかの留学生自身

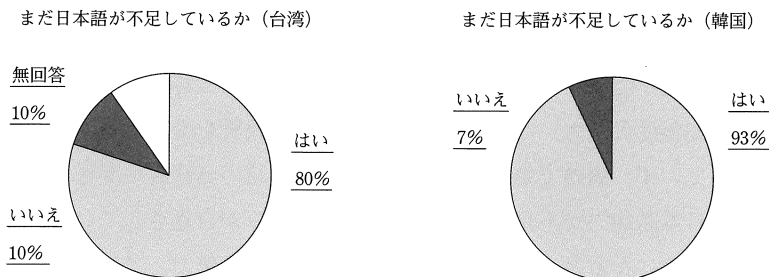
グラフ4



グラフ5 複数回答



グラフ6



による自己評価を表したもののだが、韓国、台湾、いずれの留学生も読む、書く、聞く、話す、の4技能がバランスの取れた形でついたと評価している。しかし、80%の台湾人留学生、93%の韓国人留学生が一年間の日本語コースでの日本語学習では、まだ、日本語能力が不足しており、充分ではないと認識しているという結果がでた。(グラフ6) これは学部授業に充分についていくには、日本語の力がまだまだ不足しているという意味だと思われる。

5 学部授業に対する留学生の理解度と留学生が挙げる困難度

今回行った、アンケート調査を以下の4点を中心に分析していく。

- (1) 留学生が学部の講義をどの程度理解できているか、その理解度を知ること(グラフ7-a) (グラフ7-b) (グラフ8-a) (グラフ8-b) (表9-a-1、2) (表9-b-1、2)
- (2) 留学生がどんなことを困難だと考え、どの程度困難だと考えているか (表10-a-1、10-a-2) (表10-b-1、10-b-2)
- (3) その担当教官は留学生の講義の理解度をどの程度把握し、どのように対処しているか (グラフ11-a) (グラフ11-b) (表11-c)
- (4) 留学生は困難なことをどのような方法で解決しているか (表10-c-1)

(1)の学部授業に対する留学生の理解度の認識は、講義全般の理解度(グラフ7-a) (グラフ7-b) と、講義を理解する上で大きな要素となる板書がどのくらい理解できているか(グラフ8-a) (グラフ8-b) を調べた。更に、どのような講義形態が留学生にとって分かりやすいか(表9-a) (表9-b) も分析した。

講義全般の理解度は、一般教科ではグラフ7-aにあるように、80%以上理解できる学生が台湾人留学生、11%、韓国人留学生は46%、50~80%は理解できると答えた台湾人留学生は42%、韓国人留学生は27%で、台湾は53%の学生が、韓国は73%の学生が講義の半分は理解できると答えている。専門教科はグラフ7-bにあるように、80%以上理解できる学生が台湾人留学生は5%、韓国人留学生は65%、50~80%は理解できると答えた台湾人留学生は37%、韓国人留学生は30%で、台湾は42%の学生が、韓国は95%の学生が講義の半分は理解できると答えている。この「半分は」なのか、「半分しか」なのかをもっと詳細に調査すれば日本語コースに対する、ニーズをきめ細かく、把握する一助になったと思われるが、今回の調査では分析できるだけの充分

な調査項目がなく、次回の課題としたい。

「先生の板書がどのくらい理解できるか」は、一般教科ではグラフ8-aにあるように、80%以上理解できる学生が台湾人留学生は37%、韓国人留学生は49%、50~80%は理解できると答えた台湾人留学生は26%、韓国人留学生は24%で、台湾は63%の学生が、韓国は73%の学生が先生の板書が50%は理解できると答えている。専門教科はグラフ8-bにあるように、80%以上理解できる学生が台湾人留学生は32%、韓国人留学生は75%、50~80%は理解できると答えた台湾人留学生は26%、韓国人留学生は15%で、台湾は63%の学生が、韓国は90%の学生が先生の板書を半分は理解できると答えている。

次に表9-a、表9-bにあるように、「どんな形の講義が一番分かるか」に先生の話だけよりは、テキストやプリント等の補助教材があったほうが、講義の理解に役に立つと、一般教科で台湾人留学生の92%、韓国人留学生の85%、専門教科でも台湾人留学生の77%、韓国人留学生の88%が答え、一般教科も、専門教科も、テキストのみより、プリントなどの補助教材を使う講義の方が、より理解できるとしている。一方、担当教官は留学生の講義の理解度を、一般教科、専門教科合わせて、24%が良い、46%が普通と評価している。(グラフ11-a) これが(3)その担当教官は留学生の講義の理解度をどの程度把握し、どのように対処しているかの回答となり、担当教官は留学生が講義の70%を理解していると考えているということになる。学生、担当教官、双方ともに、講義内容は半分以上理解できている、されているという認識がありながら、一般教科で、台湾人留学生の79%、韓国人留学生の73%が、専門教科で、台湾人留学生の69%、韓国人留学生の60%と、かなり高い比率で講義の理解に困難を感じているという結果がでた。(表10-a-1、10-a-2)

留学生が困難を感じている項目の順位は一般教科、専門教科、両方とも、台湾人留学生は1 先生の話し方、2 講義の内容、3 板書、の順であげている。韓国人留学生は1 板書、2 先生の話し方、3 講義、の内容の順番であげている。(表10-b-1、10-b-2)

これは調査での韓国人留学生の理解度の割合と矛盾するが、漢字圏台湾人

留学生の漢字の知識量と、漢字を自国であり学習してこない韓国人留学生の漢字の知識量が学生の感じる困難度に反映しているのだろう。

前述したように担当教官は留学生の講義の理解度を是としながらも、留学生にたいして、講義の際には特別な配慮をする教官が60%をこえた。特に必修科目の75%の担当教官が特別な配慮をしていると回答した。(グラフ11-b) 教官がどんな配慮をしているかはa板書を分かりやすくする(73%)、bできるだけ標準語を使う(74%)、c提出課題など日本人学生よりやさしくする(21%)、d提出課題は同じだが、参考資料や語彙表、英訳など、手助けになるものを渡す(26%)、eその他(4.6%)となっており、多くの教官がはっきり、ゆっくり話す、具体的な例を挙げるようにするなど留学生の講義のよりよい理解を得るために、努力をしている。(表11-c)

その他に、用語を日本語、英語で併記するという配慮もあったが、アジア圏の留学生の中には、英語を苦手とする学生も多く、全ての留学生への配慮であれば、より分かりやすい日本語での説明が、留学生にとっては理解の助けになると思われる。

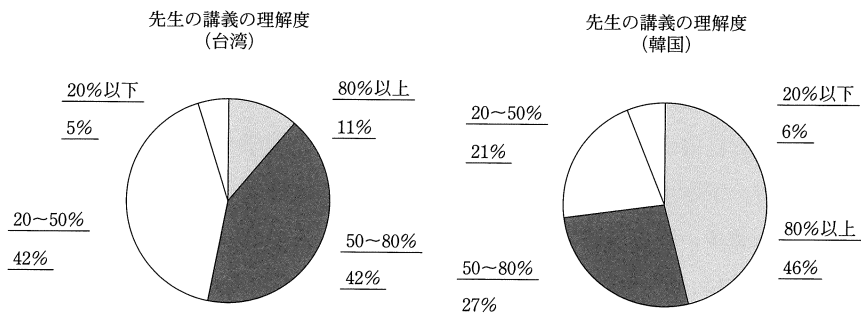
担当教官は留学生に対する特別配慮という形で、留学生の講義理解を支援する一方、留学生は(4)困難なことをどのような方法で解決しているかという、一番多い解決方法は「講義の内容」に関しては台湾人留学生、韓国人留学生、共に、「友達に聞く」で、一般教科が39名中、10名、専門教科が23名中、7名だった。次の解決方法は一般教科で「先生に質問する」、と、「その他」⁶⁾が同数の5名だった。専門教科は「先生に質問」が1名、「その他」が2名だった。「先生の話し方」が理解できないとき、一番多かったのは「友達に聞く」で、一般教科13名、専門教科12名で、次の解決方法は一般教科、「先生に質問する」、と、「その他」が同数の8名、専門教科は「先生に質問」が3名、「その他」が2名、だった。板書が分からないときは「友達に聞く」留学生が圧倒的に多く、一般教科12名、専門教科、10名だった。次の解決方法は「先生に質問する」、一般教科8名、専門教科4名、「その他」は一般教科4名、専門教科0名だった。この板書については、韓国人留学生が友達に

聞くだけでなく、先生に聞いたり、その他の解決方法を取っているのに対して、台湾の学生は誰も先生に聞いたり、その他の解決方法を求めているという注目すべき結果がでている。(表10-c-1、10-c-2)

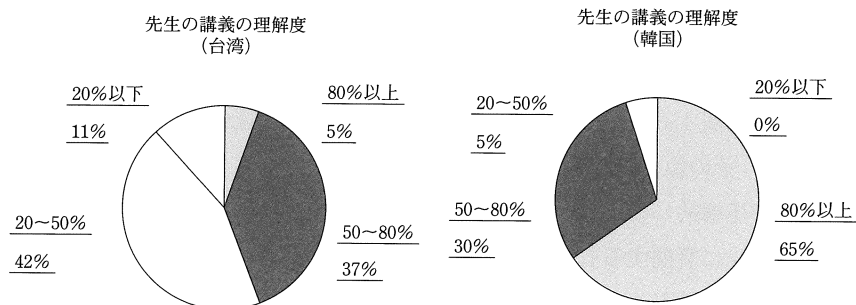
留学生は「講義の内容」で理解できない問題点として、日本語の能力、語彙不足、特に、専門教科で専門知識、語彙の不足等をあげている。「先生の話し方」の問題点として、スピードの速さ、方言、発音の不明瞭さ、声が小さい等をあげている。「板書」は字が分かりにくい、略字、字が小さい等をあげている。

留学生は語彙、専門知識の不足を理解できない要因と自覚しているが、担当教官も留学生への要望として、日本語の4技能をもっと伸ばすこと、専門用語の語彙の理解をあげている。(グラフ12-a) (グラフ12-b)

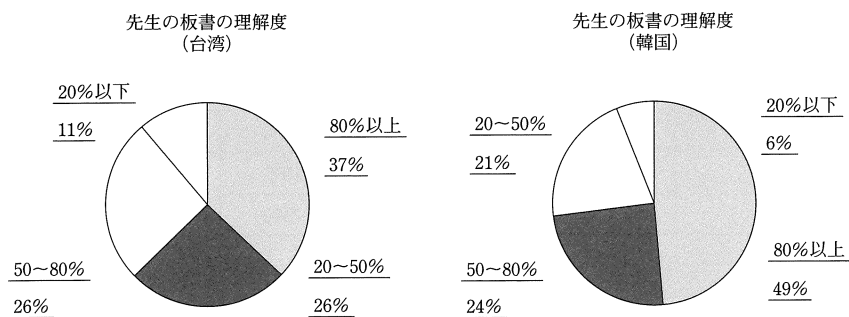
グラフ7-a 一般授業



グラフ7-b 専門科目



グラフ8-a 一般授業



グラフ8-b 専門科目

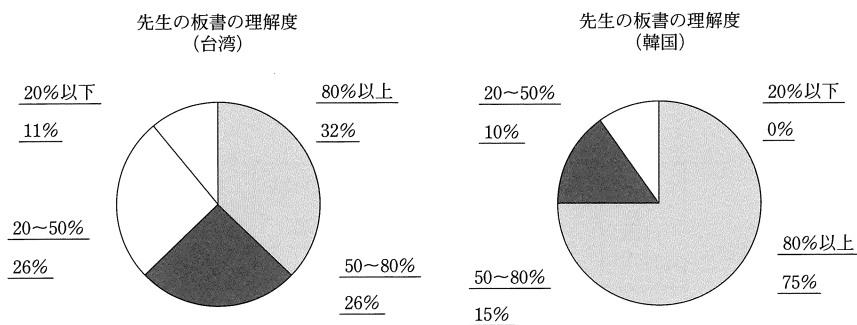


表9-a-1 一般授業

| どんな形の講義 がいちばんわかり ますか | | テキスト だけ | 先生の話 だけ | テキストと プリント | 視聴覚教材 | 合計 |
|----------------------------|----|------------|------------|---------------|-------|-----|
| | 台湾 | 2 名 | 4 名 | 10名 | 3 名 | 19名 |
| | % | 10% | 21% | 53% | 16% | |
| | 韓国 | 3 名 | 5 名 | 19名 | 4 名 | 31名 |
| | % | 9 % | 15% | 58% | 12% | |

表9-a-2 専門科目

| | | テキスト だけ | 先生の話 だけ | テキストと プリント | 視聴覚教材 | 合計 |
|----------------------------|----|------------|------------|---------------|-------|-----|
| どんな形の講義 がいちばんわか りますか | 台湾 | 3名 | 2名 | 10名 | 3名 | 18名 |
| | % | 16% | 10% | 53% | 16% | |
| | 韓国 | 2名 | 0名 | 15名 | 2名 | 20名 |
| | % | 10% | 0% | 75% | 10% | |

表9-b-1 一般授業

| | | 役に立つ | 普 通 | 役に立たない | 合 計 |
|------------------|------------|------|-----|--------|-----|
| 補助教材は役に 立ちますか | 台湾 12名中 | 5名 | 6名 | 1名 | 12名 |
| | | 42% | 50% | 8% | |
| | 韓国 31名中 | 11名 | 7名 | 3名 | 21名 |
| | | 52% | 33% | 14% | |

表9-b-2 専門科目

| | | 役に立つ | 普 通 | 役に立たない | 無回答 | 合 計 |
|------------------|------------|------|-----|--------|-----|-----|
| 補助教材は役に 立ちますか | 台湾 13名中 | 7名 | 3名 | 0名 | 3名 | 13名 |
| | | 54% | 23% | | 23% | |
| | 韓国 17名中 | 12名 | 3名 | 0名 | 2名 | 17名 |
| | | 70% | 18% | | 12% | |

表10-a-1 一般授業

| | | は い | いいえ | 無回答 | 合 計 |
|---------------------------|----|-----|-----|-----|-----|
| 講義中困難を感 じることがあ りますか | 台湾 | 15名 | 3名 | 1名 | 19名 |
| | | 79% | 16% | 5% | |
| | 韓国 | 24名 | 8名 | 1名 | 33名 |
| | | 73% | 24% | 3% | |

表10-a-2 専門科目

| 講義中困難を感じることがあります | | は い | いいえ | 無回答 | 合 計 |
|------------------|----|-----|-----|-----|-----|
| | 台湾 | 11名 | 4 名 | 1 名 | 16名 |
| | | 69% | 25% | 6 % | |
| | 韓国 | 12名 | 7 名 | 1 名 | 20名 |
| | | 60% | 35% | 5 % | |

表10-b-1 一般授業

| 講義中の困難の理由は何ですか | | 講義の内容 | 先生の話し方 | 板 書 | 課題・レポートが多い | その他 |
|----------------|----|-------|--------|-----|------------|-----|
| | 台湾 | 9 名 | 13名 | 6 名 | 4 名 | 0 名 |
| | 韓国 | 9 名 | 15名 | 16名 | 2 名 | 1 名 |

表10-b-2 専門科目

| 講義の中の困難の理由は何ですか | | 講義の内容 | 先生の話し方 | 板 書 | 課題・レポートが多い | その他 |
|-----------------|----|-------|--------|-----|------------|-----|
| | 台湾 | 8 名 | 9 名 | 7 名 | 2 名 | 0 名 |
| | 韓国 | 4 名 | 7 名 | 7 名 | 2 名 | 1 名 |

表10-c-1 困難の解決法 一般授業

| 講義の内容 | | 先生に質問 | 友達に聞く | その他 |
|-------|----|-------|-------|-----|
| | 台湾 | 1 名 | 7 名 | 2 名 |
| | 韓国 | 4 名 | 3 名 | 3 名 |

| 先生の話し方 | | 先生に質問 | 友達に聞く | その他 |
|--------|----|-------|-------|-----|
| | 台湾 | 2 名 | 4 名 | 5 名 |
| | 韓国 | 6 名 | 9 名 | 3 名 |

| 板 書 | | 先生に質問 | 友達に聞く | その他 |
|-----|----|-------|-------|-----|
| | 台湾 | 0 名 | 5 名 | 0 名 |
| | 韓国 | 8 名 | 7 名 | 4 名 |

表10-c-2 困難の解決法 専門科目

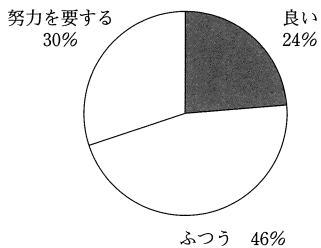
| 講義の内容 | | 先生に質問 | 友達に聞く | その他 |
|-------|----|-------|-------|-----|
| | 台湾 | 1名 | 7名 | 0名 |
| | 韓国 | 0名 | 0名 | 2名 |

| 先生の話し方 | | 先生に質問 | 友達に聞く | その他 |
|--------|----|-------|-------|-----|
| | 台湾 | 1名 | 8名 | 1名 |
| | 韓国 | 2名 | 4名 | 1名 |

| 板 書 | | 先生に質問 | 友達に聞く | その他 |
|-----|----|-------|-------|-----|
| | 台湾 | 0名 | 6名 | 0名 |
| | 韓国 | 4名 | 4名 | 0名 |

グラフ11-a

講義の理解度



グラフ11-b

必修科目教官の配慮の有無

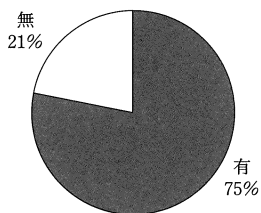
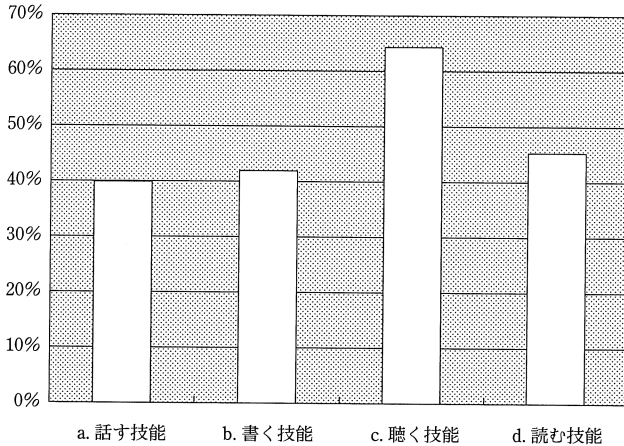


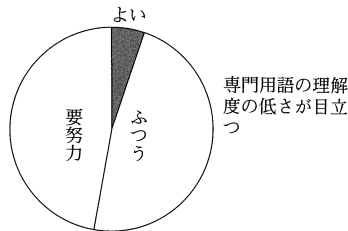
表11-c

| | |
|-------------|-----|
| 板書をわかりやすく | 73% |
| できるだけ標準語を使用 | 74% |
| 提出課題をやさしく | 21% |
| 参考資料等を与える | 26% |

グラフ12-a
留学生に対する要望



グラフ12-b
専門用語の理解



6 その他の項目

(4)までの他に、留学生にとって、単位取得をする上で欠かせない、試験を受けるとき困難を感じているかどうかを調査した。結果は、試験に際して、台湾人留学生の84%、韓国人留学生の50%が困難を感じると答えている。どんなことに困ったのか、あげてもらった。回答は一般教科で一番多かったのが「日本語で表現する」で台湾人留学生11名、韓国人留学生5名、計16名だっ

た。次に「専門知識」が、台湾人留学生9名、韓国人留学生2名、計11名。次が、「自分の考えを表現する」、台湾人留学生5名、韓国人留学生4名、計9名。次は「専門分野の文章を書く」台湾人留学生6名、韓国人留学生2名、計8名。次は「短時間でかくこと」台湾人留学生4名、韓国人留学生3名、計7名、「単語の意味」、と「暗記すること」が合計は同数の6名だが、台湾人留学生は「単語の意味」により困難を感じ、韓国人留学生は「暗記すること」により困難を感じているという結果がでた。専門教科は一番多かったのは「専門知識」で台湾人留学生8名、韓国人留学生3名、計11名。次に「日本語で表現する」が、台湾人留学生7名、韓国人留学生3名、計10名。次は、「専門分野の文章を書く」で、台湾人留学生6名、韓国人留学生2名、計8名。「短時間で書くこと」、計6名、「暗記すること」計5名、「単語の意味」、計5名だが、内訳は韓国人留学生は「暗記すること」に「専門知識」と同じくらい困難を感じており、困難を感じる項目が同じ留学生でも台湾人留学生と韓国人留学生とは違うという結果が出た。留学生が試験の際に困難を感じる原因は大きくまとめると日本語の能力不足と専門知識の不足が主なものであるといえる。(表13-a-1、2)

一方担当教官は成績評価を77%が日本人学生と同じにする、22%が成績評

表13-a-1 一般教科

| 試験について困ることがありますか | | は い | いいえ | 合 計 |
|------------------|----|-----|-----|-----|
| | 台湾 | 16名 | 3名 | 19名 |
| | | 84% | 16% | |
| | 韓国 | 10名 | 10名 | 20名 |
| | | 50% | 50% | |

「はい」と回答した人に。(複数回答可)

| 何に困りましたか | | 単語の意味 | 専門知識 | 自分の考えを表現する | 日本語で表現する | 専門分野の文章を書く | 暗記すること | 短時間で書くこと |
|----------|----|-------|------|------------|----------|------------|--------|----------|
| | 台湾 | 5名 | 9名 | 5名 | 11名 | 6名 | 2名 | 4名 |
| | 韓国 | 1名 | 2名 | 4名 | 5名 | 2名 | 3名 | 3名 |

価を甘くすると回答している。(グラフ13-b)

さらに、講義の一環として課される課題の、「レポートを作成する」、「口頭発表」での担当教官の留学生に対する評価を見てみる。回答した担当教官は47名。「レポート作成」に、27名の回答があり、回答率は57%だった。内訳は「普通」41%、「努力を要する」33%で、レポート作成に関してはまだまだ教官の期待するほどの力がないという結果である。それに対して、「口頭発表」は33名の回答があり、回答率は70%だった。内訳は「普通」55%、

表13-a-2 専門科目

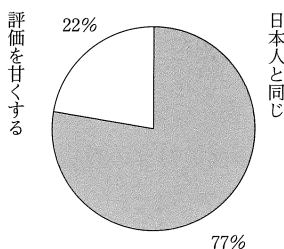
| 試験について困ることがあります か | | は い | いいえ | 合 計 | 無回答 |
|----------------------|----|-----|-----|-----|-----|
| | 台湾 | 12名 | 4名 | 16名 | 3名 |
| | | 63% | 21% | | 16% |
| | 韓国 | 8名 | 9名 | 17名 | 3名 |
| | | 40% | 45% | | 15% |

「はい」と回答した人に。(複数回答可)

| 何に困りましたか | | 単語の意味 | 専門知識 | 自分の考えを表現する | 日本語で表現する | 専門分野の文章を書く | 暗記すること | 短時間で書くこと |
|----------|----|-------|------|------------|----------|------------|--------|----------|
| | 台湾 | 3名 | 8名 | 6名 | 7名 | 6名 | 1名 | 3名 |
| | 韓国 | 1名 | 3名 | 1名 | 3名 | 2名 | 4名 | 3名 |

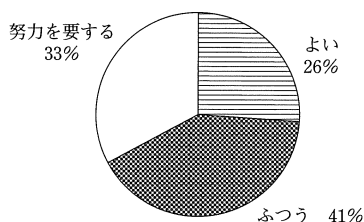
グラフ13-b

担当教官の評価



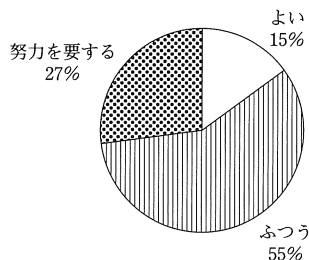
グラフ14-a

レポートの作成について



グラフ14-b

口頭発表について



「努力を要する」27%で、なんとかこなしていっているという評価であった。
(グラフ14-a) (グラフ14-b)

7 教官との関係

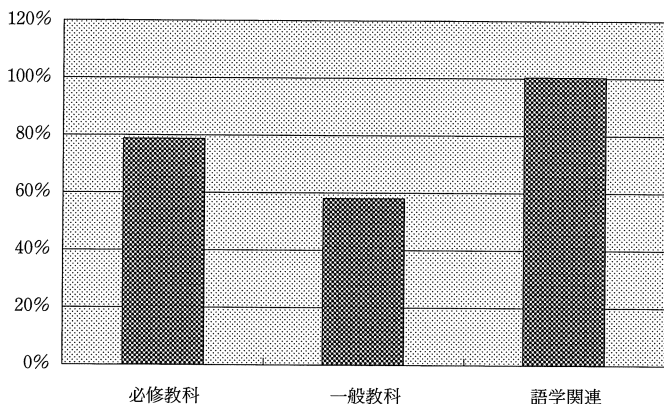
講義を受講する留学生がその講義を担当する教官とどのような関係を築いていっているかみた。まず、留学生と担当教官との交流があるか、ないかを見るのに、担当教官に「留学生とのコミュニケーション」について聞いた項目には47名中、44名からの回答があり、回答率は94%であった。(グラフ15)「留学生とのコミュニケーションがある」77%、「ない」、26%で、必修教科、79%、一般教科、58%、語学関連、100%と、多数の教官が留学生と交流があり、またはその努力をしている。(グラフ15)

内容としては「教科について相談を受ける」、などがあり、80%以上の教官が授業以外の場でも留学生との交流を図っているとの回答を得た。特に、ゼミや演習担当の教官はゼミで話し合ったり、担当教官の研究室へ呼よんだり、食事を共にしたりなど、様々な交流の場を提供しているようである。一般教科100%、必修91%、語学関連71%の教官が授業以外で話したことがあり、食堂で話すなどの場を作っている。

ゼミや演習などの学生数が少ない教科は交流の場が作りやすいし、担当教

グラフ15

留学生とのコミュニケーション



官とのコミュニケーションのみならず、日本人学生との交流も容易であるが、生徒数100名をこすクラスもある、一般教科の場合、交流も容易ではない。特に台湾や韓国の留学生は外見的にも、日本人学生と判別がつきにくいし、名前からも、どの学生が日本人学生で、どの学生が留学生かを判別するのが難しい場合がある。このため、学校側の交流の場作りも必要だと思われる。

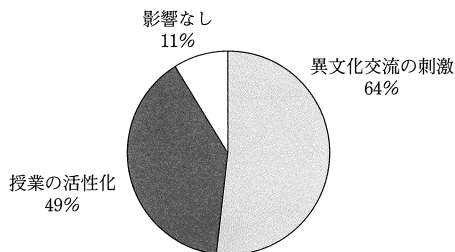
8 学園における留学生の影響

最後に、留学生を迎えて、留学生の存在は大学自体にどのような影響を与えているかみた。円グラフ16に見られるように、「留学生の存在は当大学に影響を与えているか」に64%が「異文化交流の刺激になる」、49%が「授業が活性化される」と評価しており、「影響なし」は11%だけであった。

大学の国際的な環境作りに、留学生の存在は大きな役割を果たしていると思われる。日本人学生との交流を、より、有効な形で進めれば、学部留学生、日本人学生相互の効果的な異文化交流が当学園の場を利用してできるのではないかと思われ、今後のもう一つの課題としたい。

グラフ16

大学における留学生の存在の影響



9 終わりに

日本語予備教育を終了した学習者が学部授業に於いてどのようなことに困難を感じ、学部の担当教官はどのように対応しているか、等を双方へのアンケートによってみてきた。その結果、一般教科、専門教科を担当する教官は留学生に更なる日本語の力を期待しており、留学生自身も、日本語コース終了時点の日本語力では、学部の授業を受講するためには充分ではない、もっと高度な日本語の能力が必要だと自覚していることがわかった⁶⁾。特に、日本人学生が既に持っている、一般的な基礎知識、更に、専門用語、専門知識の不足を訴えており、日本語コースでこの不足分を日本語の面でどの程度補っていけるのか、どのように補っていくのか、が今後の課題となるであろう。

さらに、大学の予備教育は語学の学習の場ではあるが、語学の上達を主目的とする人々への教育ではなく、学部生としての生活を円滑に送るための準備支援が目的である。この機能を果たすためには語学能力を高めるために工夫するだけでなく、多様なニーズを持つ学習者にたいして、総合的な援助をする方法も模索していくことが必要である。

最後に、多忙の中、ご協力くださった、諸担当教官、教務職員の皆様に感

謝致します。と同時にアンケート作成に際して、協力頂いた日本語コースの各講師にお礼を申し上げます。

注

本案作成に際して、

留学生アンケートの分析：進藤真理

担当教官アンケートの分析：永吉節子

論考、論文執筆：池原明子 が担当した。

- (1) 実際には 1998 年 9 月より発足した、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学からのイギリス人交換留学生のための日本語クラスが既にある。このコースは毎年 9 月に留学生を受け入れて、クラスを開講し、翌年の 7 月に終了する。第一経済大学の日本語コースではこのイギリスからの交換留学生を対象にしたコースも同時に進めている。
- (2) この調査の時点では、韓国人学生は 4 月に入学して、日本語コースを受講し、6 か月後の 10 月から、台湾人学生は 10 月に入学し、6 か月後の翌年の 4 月から週 20 時間の日本語教育をうけながら、一般教科を受講していく。両者共、現在の日本の大学のカリキュラムに合わせて、日本語コースを含めて 4 年間で学部卒業を予定しているため、台湾の学生は多いときには 10 教科の一般教科を取らねばならず、日本語コースでの勉強との両立をするのは厳しい環境におかれていた。これは日本の大学のカリキュラムに、10 月入学の台湾人留学生の、単位取得を合わせるため、矛盾を生じたと思われるが、2004 年度 10 月生から日本語教育の期間が延長されたことで、一般教科の受講数などが、自動的に改善された。
- (3) 宇都宮いく子、大西八ツ恵、川島妙子、二宮いづみ、平田紀子、藤井永久子、宮本梨恵、吉松淑恵、渡辺真由美、非常勤講師の協力で、アンケート項目を検討、作成。
- (4) 通常、大学の学部の授業に留学生がついていくためには、日本語能力試験 2 級以上の日本語能力が必要だとされ、日本国内の大学は、学部入学を希望する留学生に日本語能力試験 1 級の受験とその結果の報告、又は日本留学生試験の受験とその結果の報告を義務づけている大学が多い。
- (5) 留学生は解決方法の「その他」の内容として、辞書で調べる、自分で勉強すると、答えている。
- (6) 平成 16 年度より、学部の日本語 ABC が発足。レベルに合わせ、日本語再履修、より高度な日本語の学習、と留学生の期待に応えるカリキュラムになっている。

参考文献

- 『九州大学留学生センター紀要』2、4、6 号 九州大学出版
 『日本語教育』80 号、82 号、86 号、99 号、107 号 日本語教育学会
 『日本語教育学会春期大会予稿集』平成 8 年度版、平成 15 年度版 日本語教育学会

『日本語教育学会第一回地域研究集会資料』1992年
嶋弘巳著「大学における短期集中日本語教育」『日本語学』16巻6号 明治書院
田中望著『日本語教育の方法』大修館書店
『言語学習ストラテジー、外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社
『日本語日本文化』25号 大阪外大留学生日本語教育センター

Philip Hughes, “The Teachers Role in Curriculum Design”

Angus and Robertson Publishers, 1973

- ・ Chapter 1 Determinants of Curriculum Design p 1-9
- ・ Chapter 7 Curriculum Planning for Modern Languages-Vera de Rundnyanszky
O’Byne p 143-169

“Teaching Students to Learn－A Student-Centered Approach”

Open University Press, 1995

- ・ Part 2 The rationale for the approach
- ・ Part 5 In what ways do students develop as learner ? p 72-86
- ・ Part 6 How can students development be facilitated ? p 87-91
 - Taking a student-centered approach
 - Giving responsibility to the students
 - Emphasizing purpose, rather than technique
 - Emphasizing students’ awareness

付録

学生用アンケート

担当教官用アンケート

注：留学生に対するアンケートはどのレベルの学生にも理解できるように、初級レベルの日本語のみを使用した。

だいいちけいざいだいがくりゅうがくせい みなさま
第一経済大学留学生の皆様へ

アンケートのお願い

第一経済大学日本語コースも、開講以来3年目を迎えました。現在大学では韓国・台湾合わせて約134名の留学生が勉強しています。留学生が日本語のコースや学部の授業についてどのように思っているかを知りたいと思いアンケートをすることにしました。

みんなが答えてくれたアンケートは、これからの日本語コースや学部の先生方の授業の参考に使いたいと思いますので、ご協力をお願いします。

A：日本語コースについて

- (1) あなたは日本に来る前に日本語を勉強しましたか。

① はい ② いいえ



「はい」と答えた人に聞きます。何時間ぐらい勉強しましたか。

①150時間以下 ②150時間～300時間 ③300時間～600時間 ④600時間以上

あなたは日本に来る前に、日本語能力試験を受けましたか。

① はい ② いいえ



「はい」と答えた人に聞きます。

何級を受験しましたか。()級 ① 合格 ② 不合格

- (2) 日本語コースで勉強してどういう力がついたと思いますか。○は複数でもいいです。

① 聞く力(聴解) ② 読む力(読解) ③ 話す力(会話) ④ 書く力(記述)

- (3) 日本語コースで勉強していることは、大学の講義を受ける時に役に立っていますか。

① 役に立つ ② 普通 ③ 役に立たない

「③ 役に立たない」に○を書いた人はその理由を書いてください。

- (4) 1年間で日本語コースは修了しますが、まだ日本語は不足していると思いますか。

① はい ② いいえ



「はい」と答えた人に質問します。何が不足していると思いますか。

(5) 日本語コースの期間は1年間ですが、この期間についてどう思いますか。

- ① 長い ② ちょうどいい ③ 短い

↳ 「短い」と答えた人に質問します。どのくらい勉強したいですか。

- ① 2年 ② 3年 ③ 4年

(6) 日本語コースでもう少し勉強したいことがありますか。

- ① はい ② いいえ

↳ 「はい」と答えた人に質問します。それは何ですか。○をつけてください。

○は複数でもいいです。

- ① 読解 ② 外来語
③ 語彙（熟語や副詞なども含む） ④ 文法
⑤ 文章（レポートや論文を書く） ⑥ 会話
⑦ その他（ ）

B: 学部授業について

1) 一般教科について

(1) 先生の講義はどのくらいわかりますか。

- ① 80%以上 ② 80%~50% ③ 50%~20% ④ 20%以下

(2) 先生の板書（先生が黒板に書いたもの）はどのくらいわかりますか。

- ① 80%以上 ② 80%~50% ③ 50%~20% ④ 20%以下

(3) どんな形の講義が一番わかりますか。

- ① テキストだけ ② 先生の話だけ

③ テキストとプリントなどの資料を使う

④ 視聴覚教材を使う（ビデオ・テープレコーダー・コンピューターなど）

↳ ③・④と答えた人に聞きます。

補助教材が講義を理解するのに役に立ちますか。

- ① 役に立つ ② 普通 ③ 役に立たない

(4) どの教科がよくわかりますか。その理由を書いてください。

よくわかる教科名：

理由：

(5) 講義を受けていて、困難を感じてことがありますか。

- ① はい ② いいえ

↳ 「はい」と答えた人に聞きます。それは①～⑤のどの理由だと思いますか。その困難をあなたはどのように解決していますか。○を書いてください。(○は複数でもいいです。)

① 講義の内容

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

② 先生の話し方 (方言・声の大きさ・速さ等)

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

③ 板書 (字の大きさ・字の形等)

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

④ 課題・レポートが多い

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

⑤ その他

理由 ()

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

(6) 試験について聞きます。困ることがありますか。

- ① はい ② いいえ

↳ 「はい」と答えた人に聞きます。

何に困りましたか。 ○は複数でもいいです。

- ① 単語の意味 ② 専門知識 ③ 自分の考えを表現する

- ④ 日本語で表現する ⑤ 専門分野の文章を書く ⑥ 暗記すること

- ⑦ 短時間で書くこと

(7) レポートや発表などの課題がありましたか。

- ① はい ② いいえ

↳ 「はい」と答えた人に聞きます。それはどんなレポートや課題でしたか。

- ① 自分の意見 ② 一つの本を読んでまとめる
 ③ 自分の経験（国で、日本で）についてまとめる
 ④ その他（ ）

(8) 今まで勉強してきた科目の中で、一番難しかった、大変だった科目を3つ書いてください。

(科 目 名) (いつ勉強しましたか) (科目の種類)

例：(体 育) (1 年・2 年・3 年・4 年) (必須・選択)

- ① () (1 年・2 年・3 年・4 年) (必須・選択)
 ② () (1 年・2 年・3 年・4 年) (必須・選択)
 ③ () (1 年・2 年・3 年・4 年) (必須・選択)

(9) むずかしくてわからなかった時、あなたはどうしましたか？

- ① 予習をする ② 先生に質問する ③ 友だちに聞く ④ その他()

2) 専門教科について

(1) 先生の講義はどのくらいわかりますか。

- ① 80%以上 ② 80%～50% ③ 50%～20% ④ 20%以下

(2) 先生の板書（先生が黒板に書いたもの）はどのくらいわかりますか。

- ① 80%以上 ② 80%～50% ③ 50%～20% ④ 20%以下

(3) どんな形の講義が一番わかりますか。

- ① テキストだけ ② 先生の話だけ
 ③ テキストとプリントなどの資料を使う
 ④ 視聴覚教材を使う（ビデオ・テープレコーダー・コンピューターなど）



③・④と答えた人に聞きます。

補助教材が講義を理解するのに役に立ちますか。

- ① 役に立つ ② 普通 ③ 役に立たない

(4) どの教科がよくわかりますか。その理由を書いてください。

よくわかる教科名：

理由：

(5) 講義を受けていて、^{かたがは}困難を感じていることがありますか。

- ① はい ② いいえ



「はい」と答えた人に聞きます。それは①～⑤のどの理由だと思いますか。その困難をあなたはどうか^{かいけつ}解決していますか。○を書いてください。(○は複数でもいいです。)

① ^{こうぎ}講義の内容

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

② 先生の話し方 (方言・声の大きさ・速さ等)

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

③ 板書 (字の大きさ・字の形・等)

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

④ 課題・レポートが多い

理由 ()

解決法は何ですか。

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

⑤ その他

理由 ()

- ① 先生に質問する ② 友達に聞く ③ その他 ()

(6) 試験について聞きます。困ることがありますか。

- ① はい ② いいえ



「はい」と答えた人に聞きます。

何に困りましたか。 ○は複数でもいいです。

- ① 単語の意味 ② 専門知識 ③ 自分の考えを表現する

- ④ 日本語で表現する ⑤ 専門分野の文章を書く ⑥ 暗記すること

- ⑦ 短時間で書くこと

(7) レポートや発表などの課題がありましたか。

- ① はい ② いいえ



「はい」と答えた人に聞きます。それはどんなレポートや課題でしたか。

- ② 自分の意見 ② 一つの本を読んでまとめる
③ の経験(国で、日本で)についてまとめる
④ その他()

(8) 今まで勉強してきた科目の中で、一番難しかった、大変だった科目を3つ書いてください。

(科 目 名) (いつ勉強しましたか) (科目の種類)

例:(体 育) (1年・2年・3年・4年) (必須・選択)

① () (1年・2年・3年・4年) (必須・選択)

② () (1年・2年・3年・4年) (必須・選択)

③ () (1年・2年・3年・4年) (必須・選択)

(9) むずかしくてわからなかった時、あなたはどのようにしましたか?

- ① 予習をする ② 先生に質問する ③ 友達ちに聞く ④ その他()

最後にあなたの日本語について質問します。学部に入ってからあなたの日本語は上達しましたか。

- ① 下手になった ② 変わらない ③ 上手になった
それはどうしてだと思いますか。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

I 留学生の現状について（以下の項目にお答えください。）

- 1) 担当科目（複数科目をご担当の場合は、全部お書きください。）
()
- 2) 指導学年（複数学年をご指導の場合は、全部お書きください。）
a. 1年生 b. 2年生 c. 3年生 d. 4年生
- 3) 科目を履修している留学生数
a. 3名以下 b. 4名～9名 c. 10名～19名 d. 20名以上
- 4) 科目に登録した留学生について、前もって個人的な日本語能力の情報をもらった方がよかったと思われますか。
a. はい b. いいえ c. その他 ()

II 授業について

「a～f」について、「良い・ふつう・努力を要する」のうち、該当する項目に○をおつけください。留学生個人個人の格差があると思いますが、平均的な感想をお書きください。

- 1) 現在の留学生の日本語力

| | | | |
|------------------|----|-----|--------|
| a. 講義の内容を理解する | 良い | ふつう | 努力を要する |
| b. 課題のレポートを作成する | 良い | ふつう | 努力を要する |
| c. 口頭発表する | 良い | ふつう | 努力を要する |
| d. 教師とのコミュニケーション | 良い | ふつう | 努力を要する |
| e. 資料・研究リソースの収集 | 良い | ふつう | 努力を要する |
| f. 専門用語の理解 | 良い | ふつう | 努力を要する |

その他お気づきの点がありましたら、お書きください。

()

- 2) 授業をよりよく理解させるための、留学生に対する特別な配慮
a. している b. していない

※2) で「a」に○をつけられた方にお尋ねします。それはどのようなことでしょうか。

該当する項目に○をおつけください。（複数回答可）

- a. 板書をわかりやすくしている。 ()
- b. できるだけ標準語を使うようにしている。 ()
- c. 提出課題など日本人学生よりやさしくしている。 ()
- d. 提出課題は同じだが、参考資料や語彙表、英訳など
手助けになるものを渡す。 ()
- e. その他 ()

3) 評価

- a. 評価は日本人学生とまったく同じ。 ()
- b. 評価は日本人学生より甘くしている。 ()
- c. その他 ()

